

子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業 1次採択団体一覧表 〈事業概要〉

採択団体…50団体 〈事業1〉…6団体 〈事業2〉…28団体 〈事業3〉…16団体

No	事業	団体名・事業名	校種	事業概要
1-01	1	福島県立会津学鳳中学校・高等学校美術部 「思いでアートとヒロロの出会い」 プロジェクト	中高	美術部員たちが復興公営住宅を訪問し、被災された住民の方たちからふるさとの思い出写真（家族、住まい、風景等）を見せていただき、交流をかねてそこに込められた深い思い出について伺う。 特に思い出深い写真を1枚選んでいただいております、それを部員たちの手により小さな思い出絵画として仕上げる。さらに部員たちは三島町生活工芸館にて国指定伝統的工芸「ヒロロ織り」を学び、仕上げた手工芸品と思い出絵画を組み合わせた作品を住民の方たちに直接お届けにあげり交流する。
1-02	1	郡山市立桑野小学校 避難者・地域との交流を通して、未来に向け大きくふみだせる子どもになろう	小	1 仮設住宅住民（富岡町）との交流 2 ニコニコ子ども館に通ってきている母子との交流 3 地域の学校（郡山6中）の生徒、幼稚園（希望ヶ丘幼稚園）の園児との交流
1-03	1	郡山市立桃見台小学校 花の力で地域を元気にしよう	小	(1) 若宮前仮設住宅住民（富岡町・双葉町・川内村）との交流・花苗を届け、一緒に植える活動をしよう・交流会をしよう。 (2) 原発事故以来誰も寄りつかなくなった近くの公園で、地域の住民といっしょに花を植えよう。 (3) 幼稚園や保育所などに、花苗を届けたり、園児たちと交流をしたりしよう。
1-04	1	桜の聖母学院高等学校インターアクト部 高校生による借り上げ住宅訪問	高	浪江から避難して、仮設住宅にいらした人たちと2年間に渡り交流してきたが、この3月で借り上げ住宅に移住されたので、新しいコミュニティを形成する支援を行う。
1-05	1	喜多方市立第一小学校父母と教師の会 「音楽の力で絆づくり」事業	小	会津地方に避難されている、児童と保護者（主に大熊町）の方々に年間継続的に演奏会を中心とした交流会を開催し、絆づくりを図る。
1-06	1	AIZU 塾 AIZU 塾交流交歓	小中高	AIZU 塾生及び会津在住の小・中・高校生を対象に、次世代を担う地域活動リーダーとしての見聞を広めるため、交流・交歓を行い、それぞれの立場でできる地域活動リーダーとしての見聞を広めるため、交流・交歓を行い、それぞれの立場でできる地域活動リーダーを育成することを目的とする。2011年東日本大震災での浜通りの被害は、マスメディアを通し知っているが、会津に住む子どもたちにとって、自身の身に起きた被害ではないので、情報としてのだけの知識である。情報だけの知識ではなく、現地に行かなければ分からないことに気づき、感じとり、また、震災から6年、同世代の小・中・高校生は地域でどんな活動をし、復興に寄与しているのか交流交歓を行い、交流交歓後も復興・地域活性化のため、次世代を担うものとして、自分たちができることを考え、行動に移し、情報発信していくための機会とする。
2-01	2	国立大学法人 福島大学 地方創生イノベーションスクール2030 ～海外の生徒との協働プロジェクト実施～	中高	OECD 東北スクールの成果を踏まえ、被災した中高生や地方の生徒達が海外や地域・企業等の多様な人々と協働しながら地域課題解決のための「プロジェクト学習」に取り組む。この活動を通して21世紀型スキルを涵養するための教育モデルの開発と、生徒の力を生かしながら地域課題を解決する地方創生モデルの創出につなげる。
2-02	2	須賀川市立長沼中学校 熊本復興支援「奇跡のあじさい」交流事業	中	長沼商工会の「奇跡のあじさい」事業で里親となっている方が熊本県宇土市に在住し、その関係で熊本地震後に熊本県宇土市住吉中学校と「奇跡のあじさい」を通しての交流を図ってきた。互いの境遇を共有しながらこれからも復興支援をお互い継続していく中で、本校の生徒を宇土市へ派遣し、「奇跡のあじさい」のエピソードや取り組みなどを現地で発信する。
2-03	2	田島祇園祭屋台歌舞伎保存会 田島祇園祭屋台歌舞伎で福島の復興・元気を発信するプロジェクト	小	田島祇園祭屋台歌舞伎保存会では、東日本大震災直後から田島小学校等、関係機関と連携し、「子供たちの熱演で地域に元気を」をキャッチフレーズに子供歌舞伎の公演を実施してきた。 今年4月から、新型特急「リパティ会津」の運行が開始され、首都圏からのアクセスがさらに改善されたのを契機に、本町と交流のある区市町村の協力を得ながら、首都圏から大勢の方にご来場いただき歌舞伎の公演を実施する。 南会津町に来て子供たちの熱演を見てもらい、福島の復興・元氣、更に南会津町の魅力を実感していただく。

2-04	2	Seeds+ 元気を音楽にのせて ～福島からキックオフ！～	中高	被災地報告会、復興支援映画『MARCH』上映、元気発信コンサートや子どもによる福島の今を伝える発表会の企画・運営を通して、子ども達がふるさとを見つめ、新しいふるさとを創っていかうとする心を育成する。
2-05	2	小野町 沖縄県立八重山農林高等学校との 友好交流事業	高	平成 28 年度に小野高校と友好協定を締結した八重山農林高校との友好交流事業を実施することで、参加する高校生同士の相互理解と親睦を深め、震災から 6 年経過した「ふくしま」の復興と実態について、高校生自らが感じたことを伝えることを目的とする。 また、小野高校の家庭クラブが町内産農産物を使用して開発した 6 次化商品を紹介し、食べてもらうことで福島県産農産物のおいしさと安心・安全についても PR する。 そして、この事業を通じて、郷土に対する誇りと愛着心を醸成し、本県の将来を担う人材であるという意識を高める。
2-06	2	農業高校経営マーケティングプログラム 協議会 高校生による実践的六次化商品開発事業	高	経営コンサルティング会社・NPO・地元の農家らが講師となり、福島県内 5 校の農業高校生向けに授業を実施する。この授業の一環で、受講生である生徒 71 名は模擬会社を作り、東京のマーケットを意識した商品開発、事業計画作成、販売戦略の立案、販売、決算、事業評価の一連の 6 次化商品開発のプロセスを 1 年かけて実践的に体験しながら学ぶ。2 月には、1 年間の授業の集大成として、実際に東京の既存マルシェに出店し、自分たちで開発した商品の実践販売を行ったうえで決算を行うなど、1 年間の授業の振り返りを行う。 これにより、将来の地域振興や再生を担う高校生が、現地産品に高い競争力や付加価値をつけられるような製品開発力や課題解決力、更には経営に関する知識が習得される。またグループワークを中心とした実践的授業を行うことで多様な価値観を尊重する姿勢や自分らしさの発信、グループで協力して行動する姿勢等のマインドが養われる。
2-07	2	あいづっこ人材育成プロジェクト 実行委員会 会津ジュニア大使 ～会津の元気を全国に発信～	中	会津若松市立中学校在籍の中学生を「会津ジュニア大使」として親善交流都市である徳島県鳴門市へ派遣し、現地の中学生・市民・観光客との交流を図るとともに、現地でプレゼンテーションを行い会津の元気・会津の魅力を発信する。
2-08	2	田島太鼓 龍巳会 【ふくしま復興 PR 演奏】 会津の心粋 響け尾張の空へ ～名古屋城和太鼓合戦夏の陣～	小中高	震災による風評被害の払拭、風化防止を図るため、県外で和太鼓演奏イベントを行い、多くの方々に福島よさをアピールし、福島が元気である事を発信すると共に、県外の太鼓団体、及びその指導者の連携を強化することで、交流の輪を広げ県外での復興 PR 活動の場を広げる。また小中高生主体で地域の伝承を元にした曲を創作・演奏し、事業を作り上げていくことで郷土愛を育み、児童の積極性、自主性を伸ばし、福島を担う人材を育成することを目的とする。
2-09	2	郷人 踊りで繋げ！ 福島・九州 復興への想い	小中高	震災により多大な被害を受けた福島県と、長崎、熊本の両県において、同じ被害を経験した子どもたちがよさこい踊りを通して深く交流し、震災当時からの意見交換をすることにより、一人ひとりが描く将来、描く故郷の未来が、どうすれば叶えられるかを想像し、行動し、それが後の成長へ繋がるよう、視野と見聞の広がりを促す。 また、未だ西日本において払拭されきれていない風評被害を振り払い、福島と会津の活性化に貢献できるよう、会津の魅力と歴史をふんだんに取り入れた当団体のよさこい踊りを、多くの西日本地域のチームが参加する西日本最大規模を誇るイベントにおいて披露し、積極的に広くアピールすることで、地域活性化に寄与する。
2-10	2	福島県立いわき総合高等学校生徒会 復興応援コンサート	高	いわき総合高等学校の音楽関係の部活動を主体に、避難指示が解除されて間もない檜葉町と県外避難者が多く生活する新潟県（または石川県）で応援コンサートを開き、演奏と応援メッセージを届けるとともに、厳しい現状でも着実に復興が進んでいる福島県の今を発信する。
2-11	2	いわき総合高等学校芸術・表現系列演劇 福島復興！『いわき総合高等学校 総合生が 演劇とフラで 福島の元気をおとどけします』	高	いわき総合高等学校の芸術・表現系列演劇生及び家庭クラブ・フラチームが、本県からの被災避難者が多い東京（こまばアゴラ劇場）と大阪（未定）で、ムービー等で福島の復興の現状を正しく発信するとともに、高校生として全国レベルにある演劇作品の上演とフラダンスショーにより、福島の元気を被災避難者及び首都圏・近畿圏の住民等にとどける。 また、首都圏・近畿圏の高等学校、演劇関係者、フラダンス関係者等との連携を図り、若い世代から福島の現状の正確な理解を促進させていくとともに、次年度以降の連携強化を図る。 さらに、首都圏・近畿圏の被災避難者及び住民等の福島へのメッセージを事業報告会において発表し、県民に発信する。
2-12	2	国見町 国見ジュニア応援団	小	ふるさとの歴史や文化・産業産品について学び、県外に発信し、風評被害の払拭と福島復興の PR をする。また、岩手県平泉町、北海道ニセコ町、岐阜県池田町等との親善交流を図る。

2-13	2	西郷村立川谷中学校 川谷中学校総合的な学習の時間「F TIME」	中	<p>本校は、開拓の地に設立された歴史を持ち、「Frontier, Friendship, Family and FURUSATO」を総合的な学習の時間のテーマと掲げ、昨年度より今までの郷土学習に付け加えて、「川谷を愛し、川谷を発展させるために、中学生の自分たちが貢献できることを行い、川谷のよさを全国に広めたい」と、地域おこしの学習を進めている。</p> <p>学習は、学年毎に行い、3年計画を進める。</p> <p>今年度の3学年は、地域の特産物であり、自分たちも栽培している馬鈴薯の新メニューを考案し、村の給食センターや地域の温泉旅館で採用してもらえるようにプレゼンする班と写真や絵手紙を観光案内所やふるさと納税のお礼品の中に使用してもらえないかと交渉する班。さらに、機会があれば、村の東京での物産展に同行し、広く川谷のよさを知ってもらふ活動を広範囲にわたり展開していく。</p> <p>同様に、2年時の学習になる2学年は、川谷を旅してもらえる旅行プランの作成や川谷の温泉地を映像に撮り、編集し、広めていくための前段階の学習を進めていく。1学年は、川谷の環境や特産物に目をつけ、今年度はウチダザリガニの駆除やポテト饅頭のパッケージ作り、川谷の歴史を知っている地域の方のドキュメンタリーの作成を行う。</p>
2-14	2	会津若松市子ども会育成会連絡協議会 あいづっこから広がる交流事業 ～会津から余市へ、 次世代を担う子どもたちが繋ぐ～	小	<p>会津若松市子ども会のジュニアリーダーを目指す子ども会会員を対象に親善交流都市である、北海道余市町を訪問し現地での交流を図るとともに、会津との歴史的なつながりや、文化を学ぶ。また、子どもたちが余市町の子どもたちに何を伝えたいか、何を学びたいか自分たちで考える場を設け、福島のために、会津のために何ができるのか考えられるよう成長することをねらいとする。</p> <p>また、集まった仲間たちとの班活動を通して、仲間作りの方法を習得し、よりよいジュニアリーダーとなることにより、地域子ども会活動を活発にし、地域への貢献をする。</p>
2-15	2	田村市立都路小学校 「都路キュウリマン」を使って地域活性化 に取り組もう	小	<p>震災で失った活気や笑顔を取り戻すために、多くの人に地域のよさを伝え、訪れてほしいという思いを持って活動する。そのために、卒業生が開発した「都路キュウリマン(キュウリジャム)」を特産物として販売活動を行う。児童自ら販売を企画・実施することで、地元都路のよさをPRするだけでなく、風評被害の払拭と将来への希望を発信していく。</p>
2-16	2	ベテランママの会 学びあおう「ひろしま・ふくしま」	中	<p>放射能汚染という共通項を持ったふたつの地域である広島・福島。戦後からの復興を遂げた広島。語り部の方々や、資料から原爆の被害やそれを乗り越えてきた人々の努力や苦勞、知恵を学び、福島と重ね合わせることで、福島の復興へ向けて自分たちのできることは何かを考える。また、『放射線基礎知識テスト』を通して放射線についての正しい知識を深めるとともに、福島県の現状の正しい理解と「風評被害」「環境問題」等について両者の交流を通して今後の福島を考えるきっかけとする。これからの復興の主体となり、福島の、南相馬の未来を担う中学生、高校生のふるさとへの誇りや愛着を高めながら、人材の育成を図る。</p>
2-17	2	福島県立湯本高等学校家庭クラブ Heart to Heart Communication ～湯高生からつなげる一輪の花～	高	<p>東日本大震災から6年。本県の風評払拭とメンタルケアのさらなる充実が求められる今日。高校生が主体となり、自ら開発した商品(レシピ)と共に、メンタルヘルスケア事業を開催する。</p>
2-18	2	ガールスカウト福島県連盟 ふくしま防災・減災プロジェクト	小 中	<p>子どもたちが体験活動を通して防災の意識や技術を高めると共にコミュニケーション力や防災力を身につけ、たくましく生き抜く力を養って被災地の子どもも支援にあたる。</p> <p>ガールスカウトの組織を活かし、ガールスカウトとして身につけている力を発揮しながら震災の記憶や復興への思いを風化させないように元気な福島を県内や他県へ発信する。</p> <p>南相馬市の子どもとの交流(体験活動4回)：南相馬市 「街頭キャンペーン」パネル展示と体験コーナー：郡山駅前 「いきるちからキャンプ」2017：猪苗代町 「街頭キャンペーン」パネル展示と活動紹介：福島駅前</p>
2-19	2	福島県立福島高等学校PTA Radiation Protection Workshop in Fukushima 2017	高	<p>本事業は、放射線および福島復興に向けた教育の重要性を踏まえ、参加生徒に震災や原発事故とその復興への課題について体験的に学ばせ、長期的な課題解決に取り組む力の育成を目指す。さらに学んだことを海外県外の高校生と共にまとめ発表することで、福島の課題についての理解を深め、参加生徒の国際的な発信力を高めることを目的とする。</p>
2-20	2	福島市教育委員会 平成29年度世界に羽ばたく ふくしまっ子育成事業	中	<p>本市の中学生が世界に視野を広げ、次世代のリーダーとして将来に対する「夢」と「志」を膨らませながら、たくましく成長してほしいという願いを込め、平成26年度にスタートした事業。</p> <p>本年度は、各中学校において外部講師を招聘し、生徒を対象とした講演会を開催する「講演会開催事業」と各中学校の代表生徒が本市の伝統文化や震災当時の状況と復興の現状などを英語で報告する「東京アメリカンクラブとの交流事業」を実施する。</p>

2-21	2	福島県 PTA 連合会 水俣との交流事業	小中高	<p>震災、原発事故以降、福島県の置かれた状況は、好転は見られるが依然として厳しい現実に直面している。そんな中、本会では、水俣市の経験を後世に伝えるとともに「環境学習都市」を目指している水俣市の中学生との研修・交流学习を通し、本県中学生が視野を広め、ふるさとへの誇りと愛着を高めながら、ふるさと「福島」の復興へ向け、中心となって活躍できる人材を育成したいという願いから平成 25 年度以降 4 年間、本事業を継続してきた。</p> <p>5 年目を迎える今年度は、今まで本事業に参加した生徒を一堂に会し、参加年度の垣根を越えた交流会を実施し、この事業のまとめとする。</p> <p>今回の交流会では、各参加者が歩んできた足跡をたどったり、ふるさとへの思いを共有しあったりすることで、各自の思いや考えを広げ、深めることで各自のさらなる成長を促す。それにより、本事業を検証し、これからのふくしまを担っていく若人に未来を託す。</p>
2-22	2	福島東高等学校ダンス部 ダンスで発信笑顔のふくしま ～復興の町女川町～	高	<p>「福島は人が住んでいるの？」といまだに誤解される福島県。元気に充実した高校生活を送っていることを積極的にアピールしていくことが風評被害払拭には一番大事。私たちダンス部は毎日励んでいる「ダンス」を発表することで福島の高校生が元気に復興していることを発信していく。さらにダンスバトルを開催し、地元の中学生・高校生と交流して未来につながる友情を育てる。今回は東日本大震災で甚大な津波被害を受けた宮城県女川町で発表と交流を行う。女川町では震災の教訓を千年後の人たちに伝えるため、当時の中学生・高校生が中心となり岬に石碑を作るなどさまざまな活動を行っている。その行動力を福島の高校生が学び、未来のために高校生が考え実行する力をつけることを目指す。</p>
2-23	2	MJC アンサンブル 音楽で結ぶ 世界の絆	小中高	<p>国内外でまだまだ深刻な風評被害が続くなか、払拭をはかるため福島県の PR 活動を行うとともに、わたし達の想いが詰まっている、南相馬市小高区で生まれた「群青」を南相馬で生活しているわたし達、MJC アンサンブルが演奏し、たくさんの合唱団やアマチュア演奏者と音楽交流を深める。</p> <p>震災以降世界から多くの支援をいただいた。先輩たちの活動に共感し、震災当時の記憶のない小さなメンバーも加わり元気に演奏している姿を、音楽の都ウィーンで紹介する。また、世界的にも交流を継続している事が珍しいとされている、ウィーン少年合唱団と意見交換や演奏交流を行い、2 度目の第九を演奏し諦めない大切さ「ふくしまからはじめよう」を世界に発信する。</p> <p>事業の後半には地元と福島市で中間報告会、報告会を実施して地域の方々や、県民の皆さんとも事業内容など情報の共有をする活動も行う。</p>
2-24	2	特定非営利活動法人チームふくしま 震災があったから“こそ”生まれた物語を 全国へ発信！ ひまわり甲子園 2018	小中	<p>福島県の子どもたちが、震災の体験談や震災があったからこそ気づいたことを、全国で講演活動を行う。福島ひまわり里親プロジェクトに取り組む教育団体などが、復興支援活動を通して生まれた物語を発表するイベント「ひまわり甲子園」の地方大会での講演会・講話・交流会を行う。また、福島ひまわり里親プロジェクトの応援ソング「ひまわり」を作詞・作曲した福井県鯖江市立立待小学校の児童と交流をする。</p>
2-25	2	いわき市 いわき志塾 長崎派遣事業	中	<p>市内中学生のうち公募で選ばれた生徒が、本市同様に放射線被害を受けた長崎市との平和学習を中心とした交流体験を通して、東日本大震災での経験、福島の実状及び今後の展望を発信する。</p>
2-26	2	只見町 ジャズで体験交流事業	小中	<p>新潟県魚沼市「小出郷文化会館」で 9 月に開催される「ジャズサマーフェスティバル」において、只見町の小中学生が参加し、大勢の前で演奏を披露し、交流を深め、ふくしまの元気を PR する。</p> <p>また、そのイベント前の数日間プロのジャズ演奏家に来てもらい、只見町の小中学生にプロの指導によるクリニック（事前指導）を実施する。</p>
2-27	2	福島県立小名浜高等学校後援会 小名高シアター震災復興支援 プロジェクト	高	<p>小名浜高等学校の演劇部が、熊本県と東京都、そして小名浜において東日本大震災から力強く生きる高校生の劇を上演することにより、熊本県においては、熊本震災後の心の復興支援を応援し共にがんばろうという絆をつくり、東京公演においては福島県東京事務所との連携により、東日本大震災からのふくしまの復興をアピールすることで風評を払拭し、小名浜公演においては、熊本公演と東京公演で学んだより高い演技を披露することにより復興に向かう福島県民を勇気づけ更に加速させる。</p> <p>熊本公演（8/1～8/3）においては、熊本県演劇連盟との連携により、熊本県男女共同参画センターはあもにいにおいて、熊本県の演劇部の生徒達と協力して上演を行い、その後、それぞれの県がおかれている状況や高校生としてできることや、互いに励まし合うための交流会を設ける。</p> <p>東京公演（8/8～8/9）においては、調布市のせんがわ劇場において、福島県東京事務所と連携し、風評払拭のための展示や県産品の物販を行い、ふくしまの復興をアピールする。</p> <p>小名浜公演（10 月）においては、小名浜市民会館において地域の人々や、相双地区から避難している人々を招待し上演を行う。</p>

2-28	2	鬼ヶ城太鼓保存会 鬼ヶ城太鼓	小 中	創作鬼ヶ城太鼓を後世に引き継ぎ、太鼓の技術向上を図るとともに、地域の活力の向上並びに地域文化の向上及び発展に寄与する。 いわき市立桶売小中学校運動会や文化祭、いわきの里鬼ヶ城桜祭りや収穫祭、その他地域等の要請により発表する。
3-01	3	ひろの映像教育実行委員会 ふるさと創造・映像教育プロジェクト	中	東日本大震災を機に中学校において映像制作を行っており、映像制作をとおして、ふるさと広野町の良さを再発見し、伝統と文化を見つめ直すことにより、広野町の未来と地域の復興に貢献できる子どもたちを育成する「ふるさと創造学」に取り組む。
3-02	2	福島県立安達東高等学校生徒活動後援会 Bee Happy! ～安達東高から元気のプレゼント～	高	安達東高等学校の生徒が、生産した農産物の販売をとおして福島県産品の風評被害を払拭するとともに、安全で高品質であることを県内外にPRする。 また、被災避難者及び地域住民との交流事業を通じて被災の現状を理解し、生徒が自主的・意欲的に復興の手立てを考え行動することで、豊かな心と健やかな身体を備えた地域社会に貢献できる人材育成を図る。
3-03	3	福島県立小高産業技術高等学校商業研究部 相双6次化スマイルプロジェクト ～2つのKiseki～	高	本校生徒（商業研究部員）が「商業高校生にできる地域貢献・地域活性化」をテーマに活動し、地元商品を使った新商品の開発や販売会を実施することで、地元の良さをPRするだけでなく、原発被災県で風評被害を受けている福島県南相馬市の高校生の方で福島県南相馬市の復興を広く発信する。 さらに、商品開発や販売会を通して将来地域に貢献できる人材を育成する。
3-04	3	学校法人新潟総合学院 国際アート&デザイン大学校高等課程 ふくしまデザインコンテスト2017	高	東日本大震災から丸6年が経過したが、未だに避難生活を送る人も多く、身体的・精神的な支援を必要としている現状が今なお続いている。毎日のストレスと未来への不安の中、少しでも「元気・笑顔・希望」を与えられるものの一つに文化・芸術分野がある。本校生徒達が専門に勉強するそれらの文化・芸術分野を生かし、福島県全域の中学生を対象に福島県固有の資源である自然・文化・伝統をテーマとした全4部門（①キャラクターイラスト②4コマまんが③ファッションデザイン④ネイルデザイン）のデザインコンテストを実施。各部門の受賞作品を展示会形式で県内外各地にて発信し、「元気で明るいふくしま」を広くアピールし復興を加速させる一助にするとともに、若い世代に福島を知ってもらう機会とする。
3-05	3	公益財団法人 日本YWCA YWCA活動スペース「カーロふくしま」 ふくしまから考える新しいエネルギー Part3	高	福島県在住の高校生が自然エネルギーの仕組みや使い方を学び、日々の生活で実際に活かし、社会に広めていく活動を行う。特に今年度は、2015年度より開始した本事業の取り組みを通して得た学びや各団体との交流体験を基に、生活協同組合コープふくしま他外郭団体からの協力を得、本県における再生可能エネルギーの可能性と、県内外の団体による取り組みを、自らが企画運営する「エネルギーフェスティバル」開催を通して広く周知することに焦点をあてる。未来の福島のエネジーについて考えると同時に、自らの考えを形にし社会にアピールする力を養い、原発事故後の福島で高校生たちがどのように生きていくのか自らが理解を深め、選択するエネルギーのあり方を考えることにより、福島の可能性に気づき、地域再生の担い手となることを目指す。
3-06	3	福島県立塙工業高等学校和太鼓部保護者会 ふくしま復興PR演奏と 被災者応援餅つきボランティア活動	高	福島の復興を全国にPRするとともに、震災からこれまでの全国からの支援について、感謝を伝えるための演奏活動を行う。また県内において避難生活を送っている被災者の方々を元気づけるための餅つきイベントと演奏活動を、復興公営住宅などを中心に展開する。
3-07	3	久之浜大久地区まちづくりサポートチーム 「教育とまちづくり」社会体験活動	小	復興事業としてインフラ整備が整う中、商業施設や住宅建設が始まり、まちは日に日に表情を変えている。地域で過ごす子どもたちが、まちの中で過ごした体験的な記憶を持てるよう、地域性に富んだ教育プログラムをまちづくりの専門家が企画運営・サポートする。防災緑地、商業施設などの公共性の高い場所で、子どもと地域の人に関わりのまち、未来の地域の担い手となる実感、愛郷心、誇りをもてるような継続的なまちづくりを目指している。また、社会活動として、地域行事への積極的参加を促し、企画運営に関わることでまちの一員としての実感を子どもたちに持ってもらおうなど、教育と実践を兼ね備えた体験型事業である。
3-08	3	福島県立郡山商業高等学校商業研究部 郡商ブランド販売活動	高	郡山商業高校生が主体となり、高校で学んだ商業の知識を活かし、柔軟な発想で福島県産の食に関する商品開発から、広告・販売までを行う。福島県産の食材を使った商品を全国へ発信することで、風評被害の払拭並びに食の安全を全国にPRしていく。
3-09	3	福島県立福島高等学校SSH部 福島高校SSH復興プロジェクト 陸上養殖・循環型農法	高	高校生発案の福島復興企画を支援し、養殖と水耕栽培による循環型農法であるアクアポニックスの可能性を探るとともに、養殖した魚や水耕栽培で生産したイチゴなどを提供する復興イベントを企画する。また、安全、安心を証明するための研究も同時に展開し、様々な研究発表会や福島の現状を伝えることができる発表会に参加する。

3-10	3	EMANON 準備室 しらかわの高校生による 6次化マルシェプロジェクト	高	しらかわ地域の高校生が、地域の農畜産物を首都圏で販売する、その販売促進のための準備プロセスを通じて、福島県の農業問題の課題（高付加価値化・6次産業化）を解決するための実践に取り組むことで、地域の農業の魅力を知り、発信する。
3-11	3	一般社団法人 Bridge for Fukushima BFF カレッジ	高	福島の復興課題や社会課題に関心がある高校生等を対象に、復興/社会課題をより深くかつ多角的な視点をもって分析する能力を身に付けるとともに、それらの課題に取り組んでいる大人たちをファシリテーターとして関心がある者同士で学び合い、その結果、福島の復興/社会課題に対して行動を起こす高校生等を醸成していく。具体的には高校生が関心を持っているテーマ8つを設定し、各クラス4～5か月間かけてテーマを探求しながら深掘りして学びを深め、アクションプランを作成、それを実行する。また最終的にはそれらの探求及びアクションプランを発表する成果報告会を実施する。
3-12	3	福島県高等学校教育研究会農業部会 ふくしまから美味しさと元気を発信！ ～ふくしま復興マルシェ～	高	日頃、福島県内の農業高校で学ぶ高校生が、農業実習で栽培した生産物や加工食品、復興6次化新商品などを首都圏で販売することでふくしまのおいしさと安心・安全のPRを推進する。ふくしまの農業高校生がその専門性を生かして主体的かつ意欲的に社会体験活動に参加することにより、各高校の代表生徒が首都圏で充実した販売実習を展開し、インターネット販売の企画・運営に積極的に取り組む。また、ふくしまの復興PRに寄与するだけでなく、参加生徒の地域貢献に関する達成感など意欲の変容など将来の夢や進路目標の一助とする。
3-13	3	NPO 法人はらまち交流サポートセンター 相馬農業高校×南相馬が育んだ ハマナス・クコ等新商品開発と 県外での活動PR・チャレンジショップ	高	①相馬農業高校と地域が協働で取り組んでいる「南そうま福幸植樹会」で生産したハマナス・クコ等を活用し、これまで進めてきた試作品開発を地域と連携しながら商品化につなげ、ハマナスジャム、カップケーキ、ハマナスティー等の加工品を生産する。②開発した新たな6次化商品を主とし、相馬農業高校が生産している農業加工品も併せて、南相馬市の災害協定自治体である杉並区、名寄市や、震災以降に農業高校・地域連携を図ってきた県外地域を訪問し、活動や新商品のPRとともに恩返しを目的としたチャレンジショップを出店する。③相馬農業高校が南相馬で取り組んでいる「南そうま福幸植樹会」や新商品開発、地域活性化に資する活動の意義を広く知っていただくために、日本環境教育学会の夏季大会やシンポジウム等の専門的な場で、プレゼンテーション・情報発信する。
3-14	3	High School Pitch 実行委員会 高校生によるプロジェクト応援事業 「High School Pitch」	高	県内高校生が復興課題に気づき解決するために起こす「プロジェクト」を応援する。高校生がプロジェクト活動をするにあたって課題となるプロジェクトを実行することを目的とする。高校生がプロジェクト活動をするにあたって課題となるプロジェクトを実行する能力（賛同者集め、資金調達手段、マネジメント能力）の不足とプロジェクトに向かうモチベーションが保ちきれないという課題に対して、イベント「High School Pitch」を3か月に1度開催し、プロジェクト宣言の場を作り出す。またイベント前後の高校生同士のカウンセリングや、コミュニティスペースの開放、プロジェクトの広報など包括的にサポートを行う。これらにより高校生の復興課題に向けた取り組みを行うことが当たり前となる環境ができ、プロジェクトを立案し実行する福島県の高校生コミュニティが学校の枠組みを超えて形成される。復興課題解決に向けたプロジェクトを起こす高校生が県内に増えることで高校生のプロジェクトムーブメントが起こり、新生ふくしまのイメージを県内外に発信する。
3-15	3	ふくしまバトン うつくしま・ふくしまへようこそ！ ～未来へふみだす一歩～	小中高	昨年は、「福島から熊本へ繋げるバトン」と題する熊本支援事業を行った。西原村立西原中学校のボランティア団体「れんこん」と交流し、お互いを励みにして支え合いながら繋がっていけると確信した。今年は、その継続事業として、ふくしまに「れんこん」と「おかやまバトン」を招聘し、福島を巡る。「れんこん」が熊本の今を福島の人達に伝える場を設ける。その上で三団体が具体的にどう繋がっていかを話し合う。最終的には、共同宣言を企業、学校、行政に向けて発信する。またSNSを活用し、他県や海外にも活動を広めていき、賛同者を募る。
3-16	3	特定非営利活動法人チームふくしま 福島ひまわりはちみつプロジェクト	小中	福島県の子どもたちが、全国から届けられたひまわりの種を育て、咲いたひまわりからハチミツを採取する。そのハチミツを福島に種を届けてくれた全国の方々へ感謝の気持ちを込めて商品化し販売する。その過程の中で、地域の方々と交流し、震災後の福島への風評被害や現状を学びつつ、福島魅力を再発見する。